

# タンネウシ



タンネウシはアイヌ語で「長い・木の・群生しているところ」。博物館付近の地名です

## 博物館講座 「流氷観察会」

冬のおホーツク海の魅力のひとつに流氷があります。流氷をじっくり観察すると、ただの水とは違うことがわかります。浜でとった流氷やつらら、洗面器で凍らした氷の結晶をノコギリで切断したり、偏光板を使って観察したりして、その出来かたを考えます。海岸ではクリオネが見えるかもしれません！▶日時：2月19日(土) 10:00～11:30▶場所：博物館実習室、前浜▶講師：合地学芸員▶服装：暖かい格好(帽子、手袋など)▶定員：15名※要申込、参加無料



以久科原生花園の流氷 (2013年)

## ロビー展の期間を延長します! 「樺太(絵ハガキに見る樺太の記憶 ～知られざる北の国境)」

1920～40年代の樺太(サハリン)は日本の統治下にありました。当時の樺太で撮影された風景や生活、自然の様子を伝える絵ハガキを拡大して展示しています。海岸を埋

め尽くすオットセイの群れや犬ぞりを使った林業の様子、鉄道の発達していた状況、稚内と樺太を結ぶフェリーターミナルでスケートを楽しむ様子など、当時のさまざまな風景をうかがい知ることができます。▶期間：～2月27日(日)▶場所：交流記念館ホール※ロビー展のみの観覧は無料です。



かいひょうとう  
海豹島のオットセイとウミガラス

## 収蔵資料展示 「今から90年前のひな人形」 ※羽子板も引き続き展示します

今から約90年前の1933(昭和8)年に購入されたひな人形を展示します。町民の方から寄贈いただいた貴重なもので、時代を経てもその華やかさを今に伝えています。ひな人形は、災厄を人形にのせて川に流す行事と人形遊びが結びついたものと考えられています。羽子板も邪気払いの意味があるとされ、健康を願う気持ちにつながるといえるでしょう。なお、昨年末から展示している昭和の羽子板も引き続きご覧いただけます。

▶会期：2月1日(火)～3月15日(火)▶場所：本館受付前※この展示のみの観覧は無料です。



今回展示するひな人形

## 学芸員のイチオシ



**ソンド棒**  
本来は雪崩で埋まった遭難者をさがすために雪に刺しながら使う道具です。しかし、軽くて小さくするための目盛もついているので、野外調査で雪の深さを測るのに愛用されています。本当の目的で使うことのないようにしたいですね。(村上)

休館日 2月7、14、21、28日(月)、11日(金)、23日(水)の祝日

編集後記 あまりに頻りに雪が降るので、除雪をあきらめてヒグマのように雪の下で冬眠したくなります(村)